

私は社会情報学科に所属し、情報リテラシーを中心に授業を担当しております。本学科では、学科開設当初より社会のニーズ等を反映するように「教養教育」と「実践教育」を融合しバランスの取れたカリキュラムを目指して定期的に関講科目や授業内容を見直しています。とりわけ、実践教育では検定や資格取得レベルの習熟度を達成目標として演習内容を決め、15回の授業で網羅できるように教え方等を工夫しています。

このような状況の下で、私が現在取り組んでいる教育方法を一つ紹介したいと思います。実践し始めて間もないので、その効果についての報告は今後の機会に割愛します。

対象となる科目は、「応用情報処理演習」という演習科目で、講義内容は日商簿記検定3級に対応するように構成され、簿記一巡の手續に必要なスキルを身につけさせる目的で今年度からこの科目を開講しています。情報リテラシーの中で行っていることに加え、ドリルはすべてパソコン上で行うだけでなく既製品の会計ソフト等を導入していないことがこの授業の特徴になります。

授業をするに当たり、授業の内容をモジュール化し、「仕訳」「転記」「補助簿」「試算表」「決算整理」「精算表」「伝票」「総合問題」というふうに分けています。ここでは、「仕訳」と「転記」をひとくくりにした形での学習方法を取らず、それぞれに3回の時間を当てて簿記一巡の手續を習得するようにしています。また学習の際には、取引の種類にもとづいて勘定科目を大きく「開業」「金融」「売買」「投資」「その他」というふうに分類し段階的な学習ができるようにしています。

他方でパソコン上での実習は表計算ソフトエクセルをベースとした自作の電子ファイル的なドリルで行っています(図1)。また、ドリルのコンセプトは次の二点です。あらかじめ用意されている勘定科目等の情報を選択し解法のヒントや解答を確認して(図2)難易度順に簿記の仕組みを理解できるようにすること、パソコンやソフトのスキルを必要としないことです。

また、受講生に印象を聞いたら、『答えが合っているかすぐわかるので良い』等のような定性的な感想を得ていますが、『試算表や貸借対照表の演習では問題文が長いので紙面でも配布して欲しい』等の課題も明らかになりました。

なお、今後は「学生の授業評価アンケート」や「学内の授業改善ワークショップ」といった本学 SDFD が実施しているものを参考にしながら教授法を確立していきたいと考えています。

開業関連の勘定項目の仕訳 (パターン1)

(問い)

仕訳(解答)

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額

答え合わせ(◎:正解、◎:誤答、◎:不正解、◎:不正解)

日付	借方	貸	貸方科目	金額

ヒント: 左手(借方)で「資産」要素の「現金」勘定を勘定し、右手(貸方)で店の資本金(「資本(純資産)」要素の「資本金」勘定)として処理する

図1 自作練習システムの様子

【ステップ1】仕訳帳の作成

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額

答え合わせ

日付	借方科目	金額

図2 ドリス作成の様子